

テーマ：アマモ

ECO

最先探

水質甦らせる「海のゆりかご」

「海のゆりかご」と呼ばれるアマモ。成長には水質のよいことが欠かせないため、美しい海を復活させる象徴的存在になっている。汚れて近寄りかたないイメー
ジになってしまった大阪湾をダイビングスポットにしよとダイバーたちが選んだのがこのアマモ。子供たちに自然の大切さを教えながら、海に移植して「大阪
湾再生」の夢を追い続けている。

(観水 誠)

潮流も穏やかにな
って、小魚にとっ
ては外敵から身を
守れるなど成育に
適している。海のゆりかご
と呼ばれるゆえんだが、そ
のアマモは海岸線の埋め立
てなどの開発で浅瀬が喪失
し現在、限られた海域に
しか自生していないとい
う。

隔週連載



アマモの繁殖の様子

5-6月ころに花が咲く
7月ころに種子ができる



花枝のみを種取りのよ
うに採集する。深場では
潜って刈り取る



採集した
種子を
塩水に
入れ
て養生
する

「大それた言い方にはな
りませんが、地球のために何
とかしたいという思いがあ
った」

大阪府松原市でダイビン
グスクールを運営している
関藤博史さん(49)はボラン
ティアのダイバーが集まり
海の環境保全を手掛けるN
PO法人「環境教育技術研
究会(CAN)」の理事

「大阪湾再生推進会議」の
呼びかけに応じて、平成16
年からアマモの移植に取り
組んでいる。

名古屋鑑定書が採採され
た生物多様性条約第10回新
約国会議(COP10)は、
生物種の豊かさを保てるか
が人々の将来を左右するほ
ど重要である」とを認識さ
せた。アマモの移植に取り
組むダイバーたちが大阪湾
で目指すのも「この生物の豊
かさを」

生物の食物連鎖をたおさ
すに言つと、藻類やリン
を取り込む植物プランクト
ンがあり、それを動物プラ
ンクトンが食べ、小型の
魚、大型の魚が続く「ピラミ
ッド構造」になっている。ア
マモはその多様性を広げる
一翼を担う。

関藤さんは「生物多様性
の大切さが指摘されるよう
に、生き物がたくさんいる
景色はそれだけで安心感が
ある。生き物は自然のなか
にあり、その自然がつくる
風景は生き物の集合体。ア
マモの移植を通じて、どん
なときでも生き物全体の部
合を考へることが大切だと
いうことを、子供たちに伝
えていきたい」と話してい
る。



さまざまな種子から元気なも
のを1粒ずつ選り出す



熟成すると黒くなり、サヤの
中から種子がこぼれ落ちる



2週間ほどで白くて短い芽が
出る。1カ月ほどで緑色の葉
が伸び出す



アマモは藻類やリンを取
り込むことから水質浄化に
も役立ち、群生地では強い